



TITLE:

国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点(<第2部>第3回FDネットワーク代表者会議:資料)

AUTHOR(S):

関内, 隆

CITATION:

関内, 隆. 国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点(<第2部>第3回FDネットワーク代表者会議:資料). 京都大学高等教育叢書 2011, 30: 138-146

ISSUE DATE:

2011-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/139346>

RIGHT:



「大学教育力」開発の4つのキーワード

1. 大学教員の専門性開発 (Professional Development)

大学教員の専門性開発 (Professional Development) という観点から、研究能力、授業実践能力、学生指導能力等の総合的な能力向上を図る。

2. キャリア・ステージに応じた多様なニーズへの対応

大学教員のプレ・初期・中堅・指導の各キャリア・ステージに応じた多様なニーズへの対応を踏まえた大学教員の専門性開発。さらに大学職員の専門性向上 (SD)。

3. 授業実践力、専門分野に即した教育力、学生支援力を育成するPDプログラム

高等教育リテラシー (基礎論・実践力)、専門分野教育力、学生支援力の3ゾーンから構成されるPDプログラムのコンテンツ開発と実施。また、履修証明制度を視野に各大学におけるPD推進の指導的な中核人材の育成へ。

4. 国内外インターンシップ実施と大学間連携の推進

東北地域各大学との連携に基づく国内インターンシップ、諸外国での海外インターンシップの実施による国内外大学との連携。

教育関係共同利用拠点としての目標

1. 教員のキャリアステージに対応した能力開発プログラムを開発・提供

新任教員

中堅教員

中核教員

ステージに対応したプログラムを開発・提供する

2. 職員の専門性を高めるプログラムを開発・提供

情報収集力、分析力、企画力など一般的能力と、大学評価・教育マネジメント・学生支援・広報の専門性を備えた職員を育成する

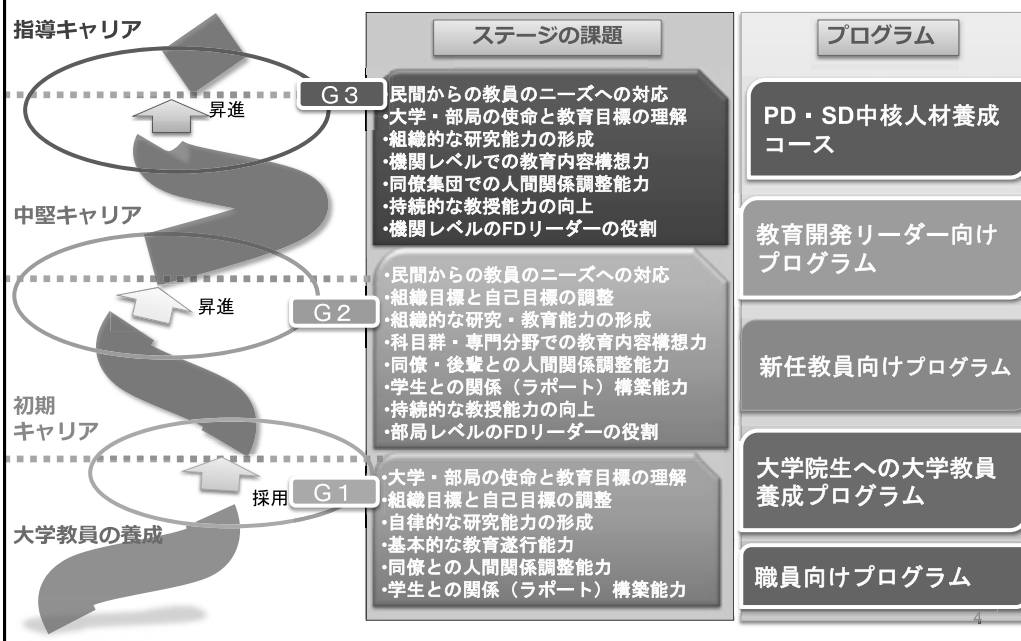
3. 各大学で専門性開発（Professional Development）に取り組む中核人材を育成

履修証明（学校教育法第105条）プログラムにより、PDを進める高度な専門人材を育成する

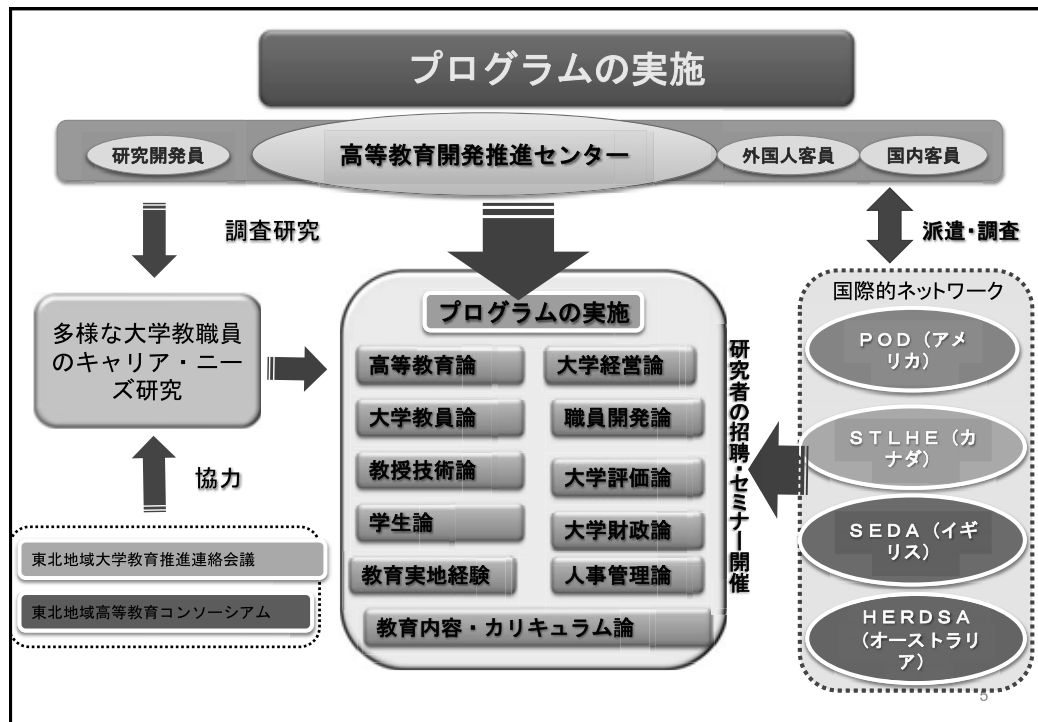
全国の大学の教育改革と教職員の能力開発を支援

3

教員のキャリア・ステージに対応した能力開発とプログラム



4



Professional Development 科目構成試案(注:科目名は例示である)

ゾーン	カテゴリー	エレメント	センター提供専用科目	大学提供兼用科目
高等教育の リテラシーL	高等教育論01	高等教育の歴史、大学の理念、大学制度・組織、入試制度、管理運営など広く高等教育に関する知識・教養に関するもの	「大学法制論」 「大学管理運営論」 「高校教育課程と高大接続」	「歴史からみる東北大学」 「知的人材マネジメント」
	大学教員論02	大学教師の役割・責務、倫理、キャリア形成など大学教員に関する知識	「大学教員のライフ・コースとは」 「研究倫理」	「現代学問論」
	カリキュラム論03	専門分野の教育論、教養教育論、カリキュラム論など教授する教育内容の教育論に関するもの	「カリキュラム・マネジメント論」 「学士課程教育論」	「工学教育の現状と課題」 「教育課程論」
	教授技術論04	授業の設計、シラバスの書き方、学習と教授の心理学、教育測定の原理と方法、プロジェクトベースラーニングの進め方、論文・レポート執筆の指導など教授技術に関するもの	「高等教育における授業設計」 「PBLの技法」 「日本語のレポート指導法」 「英語で授業をするには」	「学習心理学」 「教育評価論」
専門教育の 指導力S	学習指導法01	専門分野の学習方法の指導法	「マイクロティーチング」 「模擬授業と助言」	「授業の心理学」
	実験指導法02	実験の計画、準備、実施、結果の整理、施設・設備・機器類の使用、危険の防止、倫理的ガイドラインなどについての指導法	「理科実験指導法」	「社会調査法」
	研究指導法03	研究テーマの設定方法、関連文献の検索方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方、研究費の申請方法などについての指導法	「大学院での研究指導」	「大学生のための情報検索術」
学生支援 力W	学生論01	現代学生論、大学生の発達と学習、学生の生活問題、学生理解とカウンセリングなど学生理解と指導に関するもの	「ハラスメントに関する現状と課題」 「現代学生論」	「特別支援教育論」 「社会と大学生」
	学生相談02	大学コミュニティへの適応支援の技術、カウンセリングの基礎、コンサルテーションの基礎、グループワークの基礎、人間関係調整法等の指導	「コンサルテーションの基礎技法」	「学生相談セミナー」
	キャリア教育03	進路選択の支援方法、キャリア形成の支援方法、経済的自立の指導	「大学院とキャリア発達」	「ライフ・キャリア・デザイン」
	健康教育論04	健康な生活習慣形成の指導法、趣味や余暇活用の指導法	「青年の発達と身体」	「学生生活概論」 6



〔 海外の先行事例 〕

国際的に、大学院での教育力養成が重点に

・アメリカ

1993年から全米大学協会(AACU)と大学院協会(CGS)が、将来の大学教員養成プログラム(Preparing Future Faculty Program, PFFP)をスタート、学会も協力し、11分野44大学で認定プログラム提供、300以上の大学が連携

・イギリス

2006年以降、仮採用の新任教員に、高等教育資格課程(Postgraduate Certificate in Higher Education, PGCHE)の取得を正規採用条件、SEDAが認定した院生向けプログラムを17大学で実施

・カナダ

大学院で大学教育に必要な知識・技能修得のコースを設け、資格付与、採用時には受講者を優先

・オーストラリア

26大学で大学院での資格認定プログラムを実施し、大学院生にも履修

〔 本学が推進するプログラム開発 〕

大学院で育てる世界水準の教育力

- ・専門分野で先端的な研究能力を備えて教育活動を遂行できる能力
- ・学生の多様性(国籍・性別・民族・文化など)の理解をふまえて教育活動を遂行できる能力
- ・教育活動を反省的研究的に進めて改善する能力(SoTL; Scholarship of Teaching and Learning)

プロジェクトの概要

1. 海外先端的プログラムへ派遣し、大学教授職としての教育能力を育成

- ・ 博士課程学生・修了者・教員をPFFPに派遣し、最先端の実践的能力を育成
- ・ 参与観察により、PFFPの内容・運営・効果を調査研究
- ・ 英語での授業経験を積み、国際化に対応する教育力も育成

2. 派遣プログラムをふまえ、日本型の教育力育成プログラム開発

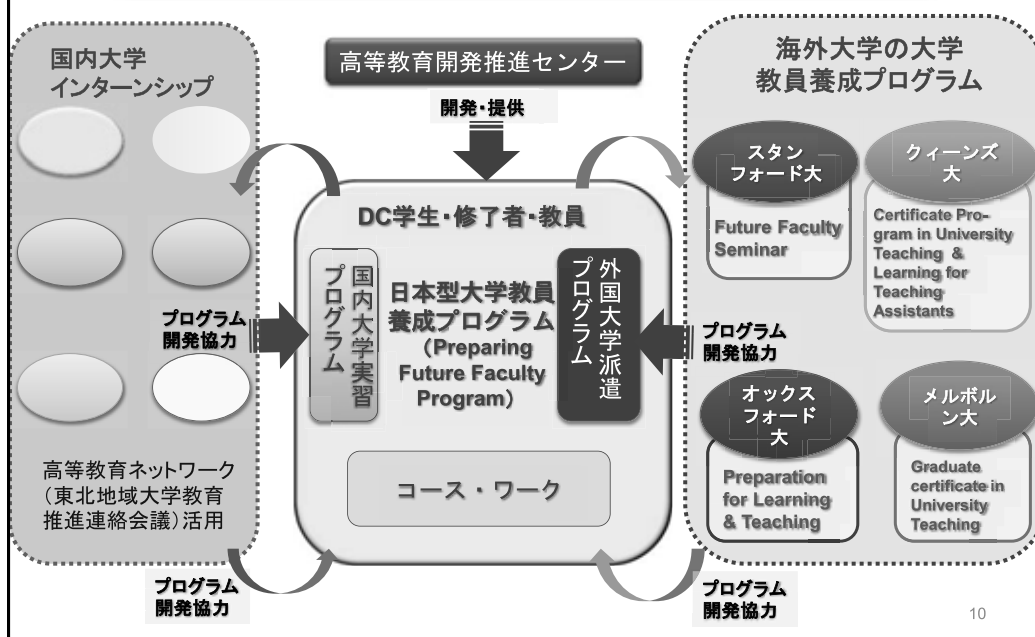
- ・ 派遣院生・教員が参加し、日本の大学教育にふさわしいプログラムの開発
- ・ 海外からの研究者・実務家を招聘し、共同研究でプログラム開発
- ・ 東北地域を中心とする国内大学の協力で、大学教育実習を開発

3. 本学のこれまでの実績を生かし、高等教育研究・教育実践・専門研究の三位一体によるプログラム開発

- ・ 言語習得過程、教育成果測定、教員キャリア研究、FD研究など高等教育開発推進センターの研究成果を活用
- ・ 基礎ゼミ、自然科学総合実験などGPでの蓄積をふまえたプログラム開発
- ・ 研究大学のポテンシャルを活用した専門分野の教授・学習方法開発

9

国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム



10

多様なプログラムに対応した派遣形態

	対象院生・教員	派遣人数	期 間	履修証明
長期派遣 学生・ 教員	博士課程後期学生及びポスト・ドクターで大学教員を志望する者 プログラム開発担当教員	5～8人	1セメスター (4カ月)	16単位相当の 履修認定
短期派遣 学生・ 教員	博士課程後期学生及びポスト・ドクターで大学教員を志望する者 プログラム開発担当教員	10～15人	4週間(外国大 学で2～4週間、 国内大学で0 ～2週間)	4単位相当の 履修認定
短期セミ ナー履修 学生	博士課程後期学生で大学教員を志望する者	東北大学で開 講する短期集中 セミナー受講、 派遣なし	6時間	セミナー履修 認定

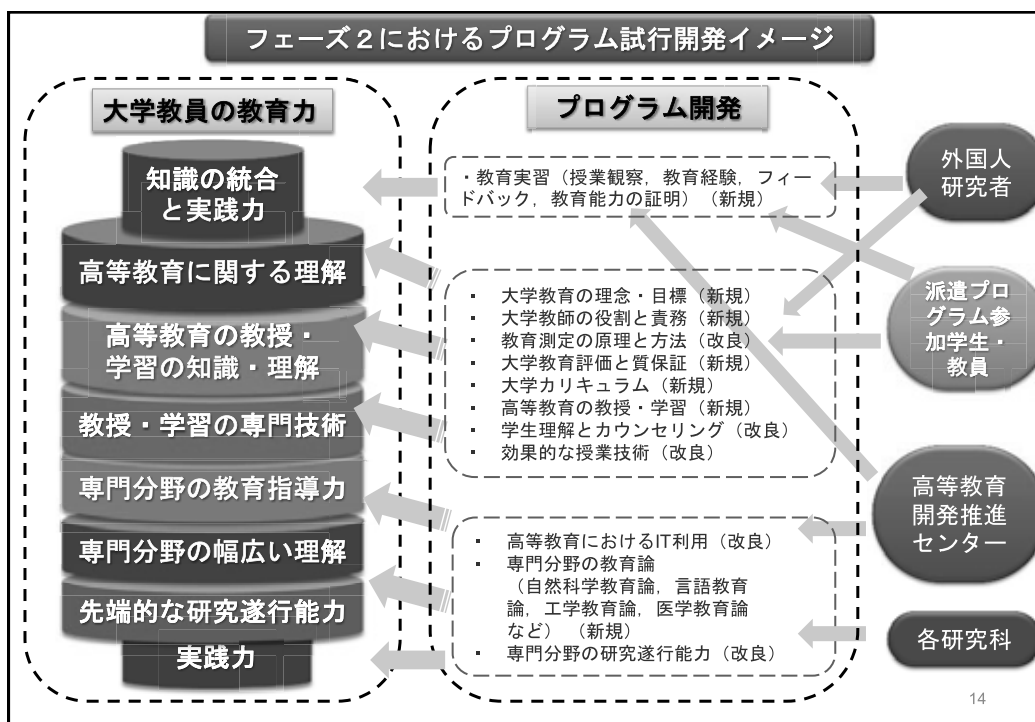
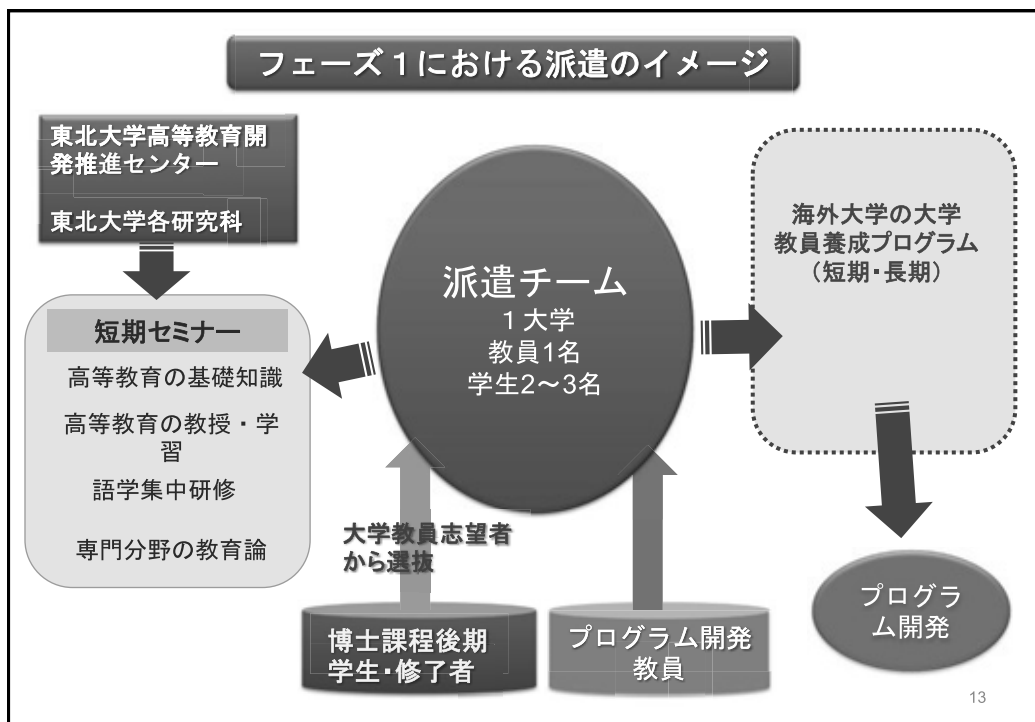
- * 1 学生の役割 専門分野別など多様なプログラムに参加し、学生の視点から受講経験を踏まえ、その運営・内容・効果などを評価。
- * 2 教員の役割 プログラムにも参加しながら運営・内容などを調査し、学生の評価を総括して、日本版PFFPの開発に従事
- * 3 短期・長期派遣学生は、短期セミナーにおいて優秀な成績を修めた者を選抜
- * 4 ポスト・ドクターとしては、日本学術振興会特別研究員、COE研究支援者フェロー、ティーチング・アシスタント

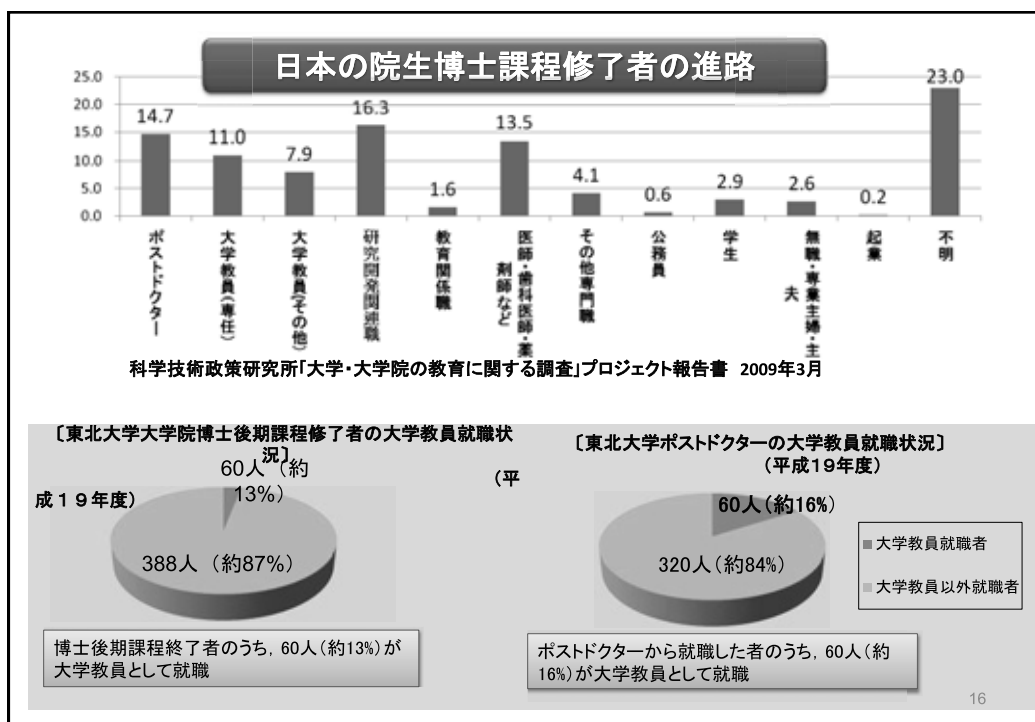
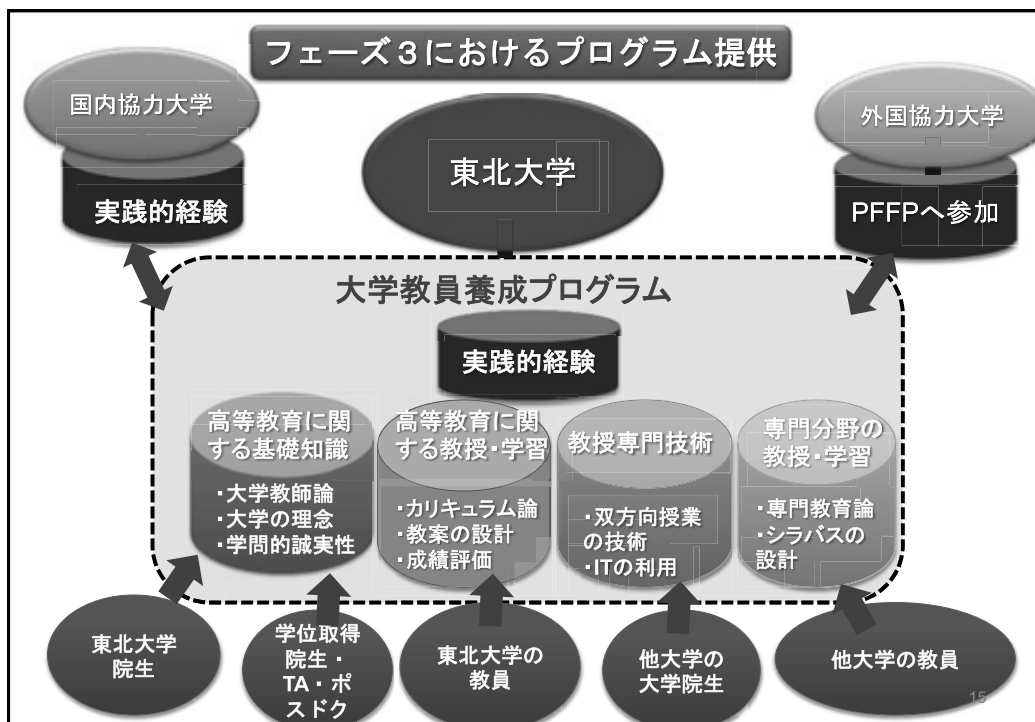
11

本事業の年度計画

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
期間の目標	フェーズ1 派遣開始	フェーズ2 プログラム試行開発	フェーズ3 プログラム実施・改善		
組織・体制整備	教職員採用、客員制度、国内外大学との協力体制			恒常的体制の準備	
調査研究	シンポ、海外調査			シンポ、海外調査	
海外派遣					
国内派遣					
プログラム開発		派遣学生のプログラム開発への参加			
プログラム提供				他大学にもプログラム提供	
効果の検証	毎年度の評価		外国専門家による中間評価	毎年度の評価	
普及と発展					

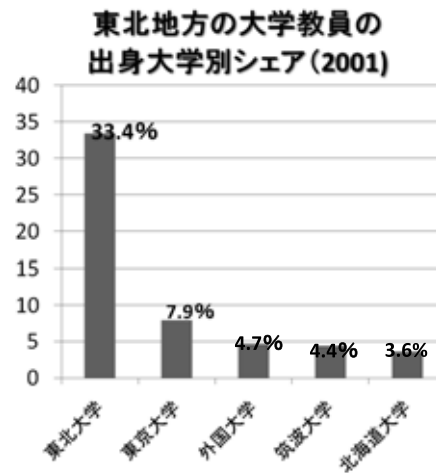
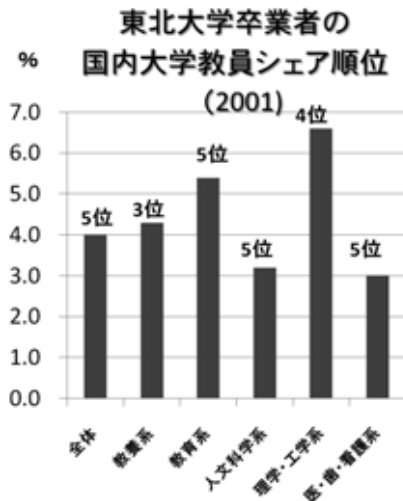
12





波及効果

東北大学での大学教員養成は日本の大学を変える



17

日本の大学におけるPFFPの課題と展望

1. 大学教員の専門性の再定義

・大学教員の専門性を、「専門分野の研究能力」だけでなく、「専門分野の知識構造を次世代に伝達する能力(教科教育及び教授能力)」、「学生を指導して教養ある市民・専門人を育成する能力(学生指導力)」の3重構造で捉えること

2. 専門職と対応した大学院教育の在り方の追求

・博士課程修了者が自己の専門を活かして社会の各分野で活躍できるために、それぞれの職種に対応した準備教育が必要であり、PFFもその一つとして位置付けること

3. 研究科、高教センター、大学全体、関連学会等の連携による大学教員養成プログラムの開発・実施

・大学教員の3重の専門性を育成するために大学教育の関係者の連携が必要

4. 政府、審議会、大学団体の協力と財政支援

・アメリカでも制度化には10年間以上要しており、長期的な取り組みが必要

18